

秋田県湯沢市 副市長

## 藤井 延之

Nobuyuki Fujii

平成16年 4月 総務省採用  
同 自治財政局公営企業課  
平成16年 8月 徳島県県民環境部地域振興局市町村課  
平成18年 4月 総務省大臣官房総務課  
平成19年 4月 同 自治行政局選挙部選挙課  
平成21年 7月 米国留学(ニューヨーク大学)  
平成23年 7月 登別市総務部参与  
平成25年 4月 内閣官房副長官補付  
平成27年 4月 現職



## このまちのために

通勤途上、中心商店街の若き経営主と挨拶を交わす。「おかげでまちが段々元気になってきた。いつまでも湯沢にいてくれ！」

市役所からの帰路、声をかけてきたのは、以前都市間交流で共にドイツを訪問した中学生。「もうすぐ受験なんで、終わったら報告にいきますね！」

秋田県の最南端に位置する人口5万人弱の湯沢市。このまちを盛り上げたい、このまちに生きる人々を幸せにしたいという打算なき想いは、今や私のレーゾンドールと不可分である。

社会情勢の目まぐるしい変化とともに、市町村の現場は厳しさを増している。人口減少・少子高齢化に対する焦燥感が徐々に高まる中、住民に最も身近な行政の動きは日々注目されている。特に地方部が課題先進地である今、都会の真似事をすればいい時代は終焉し、むしろ地方から新たな社会のモデルを示していくことが求められている。

そんな環境だからこそ、市町村行政はかつてないほど面白い。たとえば、働く機会を創出するため、オンラインで仕事を請け負う在宅ワーカーを育成する。山間部の医師不足に対応するため、遠隔診療を導入する。若者に魅力的なまちづ

くりを進めるため、統計調査や審議会で若者の声を重視するルール(条例)を作る。自らの経験や感性を基に現場でチャレンジを重ねる中、新しい地方行政のフロンティアへ向けて、間違いなく追い風が吹いていると実感する。

そしてまた、副市長という職務は、つくづく全人格勝負であると思う。特別職の仕事は庁内協議にとどまらず、庁外の様々なプレイヤーとの連携構築、あるいはトップセールスもある。そこで生きてくるのは、社交性や決断力、スピーチ力や胆力である。市内の若者グループから「イベントのPR動画に出演してラップを披露して欲しい」との依頼があったとき、私は二つ返事で快諾した。通常業務とはかけ離れていたが、結果的にはこれが多くのマスコミに取り上げられ、湯沢市の認知度向上に大きく寄与することとなった。これが奏功したのは、私という人格の様々な構成要素がオリジナルな価値を発揮した結果だと自負している。

無限の出会いに胸の高鳴りを感じながらキャリアを重ねたいならば、これまでのあらゆる人生経験を社会に還元させたいならば、果てしないフィールドで自分の可能性に挑戦したいならば、ぜひ総務省の門戸を叩いて欲しい。

## 日本のひなた宮崎県にて

入省して9年目、2度目の赴任で宮崎県に来て3年目になりました。宮崎県は、明るく温暖な気候、食の宝庫、物価の安さ及び通勤・通学時間の短さなどから、「日本のひなた」として、くらしの豊かさ日本一を掲げておりますが、高校生の県内就職率全国ワースト1など、人口流出という大きな課題を抱えています。

宮崎県1年目は中小企業向け融資制度担当、2年目は少子化対策・子育て支援担当という事業課を経験させていただきました。とりわけ、少子化対策は地方創生の1丁目1番地を担っており、大変良い経験になりました。

現在は財政課で県の予算に関する業務に携わっています。予算編成に当たっては、現在及び将来の県民のために何が必要か、事業課が何を指して事業構築しているのか、徹底的に議論を尽くすことを心掛けています。

県の進むべき方向を下支える予算を編成する重責に日々身の引き締まる思いを感じておりますが、若くして責任ある立場を経験させていただくことは、調整能力、判断力などが鍛えられると感じています。

また、管理職という立場を人生のこの時期に経験させてもらうことで、「人が気持ちよく働くことのできる環境とは?」、「人がどう動いてくれると上司が仕事をしやすいか?」など管理能力も養われるので、大変勉強になります。

### ○地域のために

総務省を志望した理由は、「国は地方の集まり」であり、制度を作る側と運用する側の双方の立場で地に足の着いた制度設計ができる、という総務省の業務に魅力を感じたこと、そして、当時の説明会で職員の方々がとても魅力的に映ったことでした。

また、霞ヶ関で分かれている業務についても、地方ですべて都道府県及び市町村の業務なので、地方行政に携わることで幅広い視野を持つことができるのも大きな魅力だと考えています。職場は変わり、目の前の業務は変わりますが、地域に暮らす住民の方のためになるか否か、が基本的な判断基準であることは変わりません。

### ○職場として

仕事上、女性ということで覚えてもらえるなどメリットを感じるからこそあれ、デメリットを感じることはありません。必要な配慮はありつつ、良い意味で男性と区別なく働かせてもらえると感じています。地域を肌で感じ、住民のための制度について考え続けることで、自分自身の成長も感じ続けることができる職場です。

一緒に、地域のために考え続けることを仕事にしませんか?

# 活躍の場は全国へ

日本全国で活躍する総務省職員たち

## 「まちづくり」というしごと

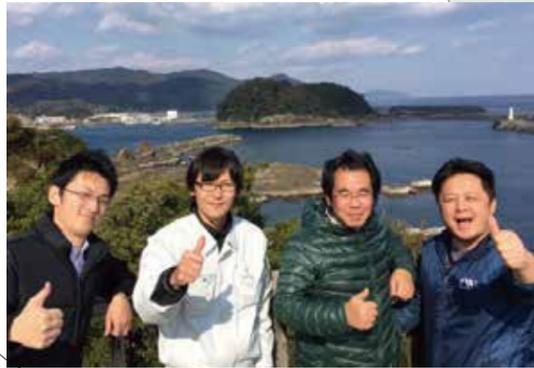
黒潮町は、高知県西部に位置する人口1万人ほどの町です。周囲を海と山で囲まれており、カツオの一本釣りで有名な漁業と施設園芸を中心とした農業が盛んです。私は今、町参事として黒潮町の地方創生に取り組んでいます。

皆さんは、「地方創生」と聞いてどんな業務を思い浮かべるでしょうか。全国に知られる特産品を生み出す、民間企業と連携して一大集客施設を建設する、そんな劇的な変化をもたらすスーパーマンのような役割を思い描いていませんか。確かに、報道等で目にする地方創生は、そのような画期的な取組が目される場面が少なくありません。しかし、それらは、何も無いところから出てきた案というわけではなく、役場と住民と、時には民間企業とが、将来の町のあり方を真剣に考え、議論を交わし、その先に得られた結果の部分が脚光を浴びているのです。

私の業務も、町長、副町長をはじめ役場の職員や実際に事業に携わっている方々と、町の課題や将来像について話し合うことが大部分を占めています。漠然とした課題であっても、細かく話を聞くことで本当の姿が見えてきます。例えば、黒潮町の基幹産業の一つである漁業では、農林業と同じように「担い手・後継者不足」が課題となっています。それだけ聞くと、新規就業者を集める取組が必要だと思うところですが、色々な人から話を聞いてみると、町全体の数字より高齢化が深刻な港がある一方、後継者をしっかり育てている港もあることが分かりました。さて、役場は何をすべきでしょうか。役場が主体的に新規就業者を集めるべきか、それとも後継者を育てている港の取組を支援すべきか、そんな話し合いを日々行っています。

地方創生をはじめとする「まちづくり」や「地域づくり」の取組は、一朝一夕で完結するものでなく、地道な議論の積み重ねと地域住民の理解があって初めて成り立つものだと考えています。住民の方々の幸せとは何か、どうすれば良い町になるのか、行政として何をすべきか、目指すべき将来像について日々議論を続けていかなければなりません。

総務省に入ると、国の制度、地方の制度を企画・立案する場面に頻繁に遭遇します。また、私のように地方自治体に出向し、直接現場の声を聞く機会も得られるでしょう。必然的に、総務省内の議論ではさまざまな視点からの意見が求められますし、その意見に耳を傾ける風土もあります。私自身、そうした環境の中で刺激的な日々を過ごしてこれたと思います。そんな日々に興味があるという方と総務省でお会いできることを楽しみにしています。



高知県黒潮町 参事

## 北岸 英敏

Hidetoshi Kitagishi

平成22年 4月 総務省採用  
同 行政評価局政策評価官室  
平成23年 4月 内閣官房副長官補室(内政総括・財務担当)  
平成25年 6月 国家公務員制度改革推進本部事務局主査  
平成25年 7月 内閣官房行政改革推進本部国家公務員制度改革事務局主査  
平成26年 5月 同 内閣人事局機構総括係長  
平成28年 7月 高知県黒潮町参事

宮崎県総務部財政課長

## 川畑 充代

Mitsuyo Kawabata

平成20年 4月 総務省採用  
同 自治行政局公務員部福利課  
平成20年 8月 北海道企画振興部地域行政局市町村課  
平成21年 4月 同 総務部財政局財政課  
平成22年 4月 総務省消防庁消防・救急課救急企画室  
平成23年 4月 同 総務課  
平成24年 8月 同 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室  
平成26年 4月 宮崎県商工観光労働部商工政策課金融対策室長  
平成27年 4月 同 福祉保健部こども政策局こども政策課長  
平成28年 4月 現職

